

山村集落の一員として - 社会貢献職員応援制度による取組 -

北アルプス地域振興局
林務課 青木瑞季

1 取組の概要

- 集落での農地景観保全活動に従事するため、「地域に飛び出せ！社会貢献職員応援制度」を活用し、地域の農事組合で活動

組合での活動内容・・・山菜収穫や農産物の栽培、農地保全(草刈)活動など



春は山菜、冬は雪中キャベツなど
年間を通して活動し作物を栽培・出荷

2 取組ポイント

- 活動する農事組合は、集落の住民全員が組合員となり活動
→大学在学時、当集落を野外調査の拠点としていたことから関わりを持ち始める。
入庁後、移住したことをきっかけに、制度を利用して組合員として本格的に活動に従事することに



←拠点にしていた古民家

学生時代のフィールドは
集落の水田でした →



2 取組ポイント

- 「住民の交流の場」

世帯数10件、集落住民の半分以上が高齢者

組合は年金以外の収益確保のほか、住民が集まり、共同作業をする交流機会の創出が目的

→集落内では少ない、若手作業員として積極的に参加しながら、

集落内のじいちゃん、ばあちゃんとの関わり合いを意識して活動

(昔から住んでいるから知っている地域のこと、しきたり、技術や知識を教えてもらう絶好の機会！)



3 成果

- 週末、月に2～4日の頻度で活動。
- 平日働いていても、月に一度は顔を合わせられる
→集落内の結びつきが強くなる！
- 雪中キャベツ販売シーズンは職場でも話題にしていただきました！



定期的に行う集会も和気あいあい

4 今後の取組の方向性

- 現在の組合の課題：高齢化による人手不足
農地集約化の検討や、栽培方法・品目の見直し
集落外部からの人手の呼び込み
(水田オーナー制度、関係人口を増やす)

→自分たちの無理のない範囲で、農地景観を維持する
集落のじいちゃんばあちゃんが作り、守ってきた風景を残していきたい

